

全酪連会報 4

2025 APR No.715

若手後継者の本音／有限会社ミルキーファーム 榊原大誠さん

令和6年度 全酪連・全国酪農協会 理事・監事・職員研修会

ランピースキン病の防除対策

農林水産省／韓国で口蹄疫が発生!

日本酪農見て歩紀／(株) alde Farm (長野県伊那市)

酪農トピックス／「第52回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会」開催

関東甲信越代表は前田匡彦さん、秋山淳子さん(東京)ほか

酪政連活動報告

全酪新報ダイジェスト版

人事異動

新入職員入会式

第52回 全国酪農青年女性酪農発表大会開催のご案内

作品募集のお知らせ



全酪連 定期刊行物のご案内

バックナンバーはQRコードから
閲覧いただけます。



全酪連会報

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/kaiho/>



COWBELL

⇒ <https://www.zenrakuren.or.jp/cowbell/>



全国酪農業協同組合連合会

概要

愛知県半田市は、名古屋市の南、中部国際空港の東にあり、知多半島の中央部東側に位置しています。半田市の象徴は、「山車」「蔵」「南吉」「赤レンガ」。山車祭りの歴史は古く、300余年の歴史があり、その伝統や文化を現在に受け継いでいます。なかでも「亀崎潮干祭の山車行事」は、ユネスコ無形文化遺産に登録され、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。また、5年に一度、各地区の山車31輛が勢揃いする「はんだ山車まつり」は55万人もの観客が訪れます。

このような歴史ある半田市にある有限会社ミルキーファームの榎原大誠さんを今回ご紹介します。



▲ 榎原大誠さん

牧場紹介

大誠さんは、父の守男さんとともに牧場を切り盛りされています。知多半島は乳肉複合経営が盛んであり、(有)ミルキーファームも酪農と肥育を営む乳肉複合経営の牧場です。

経産牛210頭を飼養し酪農経営を営みながら、ブランド牛である「知多牛」を生産しています。知多牛は愛知県内のみならず、他県でもその名前が知れ渡り、ブランド牛として人気です。

7時から搾乳牛舎の清掃・エサ給与・哺乳等の作業を行い、その後肥育牛の作業となり、11時頃には作業終了となります。

(有)ミルキーファームは圃場を所有しておらず、たい肥は全量業者へ販売しているとのこと。

就農の経緯

大誠さんは名古屋市の普通科高校卒業で、当時は牧場を継ぐ気持ちは全くなかったそうです。高校卒業後は飲食店で働いていましたが、半年が経ったところ、彼女（現在の奥さん）から「酪農をやれ」と言われ、就農を決意したそうです。

奥さんとの出会いは、大誠さんが北海道旅行（酪農とは全く関係ない旅行）に行ったときだ

今回は、愛知県半田市 有限会社ミルキーファームの後継者 榎原大誠さんにお話を伺いました。



▲ ゆったりしている搾乳牛

そうです。北海道で偶然2人が出会わなかったら、大誠さんは牧場を継いでいなかったかもしれません。奥さんに感謝です。

今後やりたいこと

元々牧場を継ぐ気がなかったため、最初は全く何も分からない状況でした。従業員が退職したタイミングでの就農だったため、労働力が足りず、お父さんの守男さんについて、作



▲ F1育成牛(知多牛)



▲ 整理整頓された飼料倉庫



▲ 知多牛運搬用トラック



▲ 哺乳ロボット

若手後継者の 本音

Vol.74

〔経営概況〕

所 属 愛知県酪農農業協同組合(鈴木康弘代表理事組合長)

家族構成 榊原大誠さん(31歳)、奥さん、父(守男さん)、お姉さん、祖父母

飼養頭数 経産牛210頭 育成牛60頭 肥育牛290頭

儲かる酪農を目指して

業を覚えていったそうです。最初は牛に近づくのも怖かったそうですが、半年経った頃には自分で考え、作業が出来るようになったとのこと。

「酪農はやればやるだけ結果がついてくる。今は牛・牧場全般に興味を持って、楽しく作業している」と話をしてもらいました。

現在は就農して13年目となり(有)ミルクファームの一員として、後継者として、今後どうしていきたいかをお聞きしたところ、即座に「搾乳牛舎を新設したい」の言葉が返ってきました。「搾乳ロボット2台分の牛舎を建て、生乳をもっと搾りたい」そうです。現在の生乳生産量があれば、牛舎新築は十分に可能であり、土地も心配ないとのこと。

搾乳牛が増えれば、肥育牛も必然的に増える

ため、肥育牛舎の増築について尋ねたところ「すでに計画していて、11月に着工予定」ということでした。すでに目標に向かって進み始めておられます。

最後に

今回はお忙しい中、取材を受けていただきまして、誠にありがとうございました。酪農に全く興味のなかった大誠さんが、現在のようにならなれたのは、奥さんの影響が大きかったことが印象的でした。人との出会いが人生を変えるのだなと思いました。

有限会社ミルクファームのますますのご発展とご家族みなさんのご多幸をお祈りしております。

全国の若手後継者の皆さんへの一言！

とても厳しい状況が続いていますが、やり次第で儲かる方法が必ずあります。いろんなことにチャレンジしていきましょう!!



全酪連・全国酪農協会

理事・監事・職員研修会

前号に引き続き、2月6日(木)～7日(金)、静岡県浜松市「ホテルグランドパレス浜松」にて開催いたしました『令和6年度 全酪連・全国酪農協会 理事・監事・職員研修会』の研修内容をご報告いたします。今月号は、清水徹弁護士、小川嘉之弁護士の講演内容を一部抜粋して掲載いたします。

理事の役割、とりわけ農協役員の大きな役割は『組合運営』、つまり意思決定をする場合においてどのような責任が発生するのか、組合の運営においてどのようなコンプライアンス体制をとっていくべきか、という大きく分けて二つのことについて、本日は説明いたします。

役員になる以上は重たい責任をもっているということを胸に刻んでいただき、日頃の業務運営に携わっていただきたいと思います。



農協役員の役割について

羽田総合法律事務所

弁護士

清水

徹氏

弁護士

小川 嘉之氏

組合運営における役員の責任

役員の法律上の位置付け

農協は、農業協同組合法に基づき設置される法人であり、理事および監事がその役員に該当します。組合と役員とは民法上の委任関係があるので、役員には、委任の本旨（内容）に従い善良な管理者の注意義務をもってその職務を執行すべき義務（善管注意義務）があるとされており、理事は、法令、行政庁の処分、定款等および総会の決議を遵守し、組合のため忠実にその職務を遂行しなければならない（忠実義務）ことが明記されています。

役員になったからには、なすべきことを善管注意義務に従い、法令や農協法を守りながら運営しなければいけないということになります。

役員の法的責任

役員は、その任務を怠ったときは、組合に対し、これによって生じた損害を賠償する責任を負います。そして、責任の原因となった行為が理事会の決議に基づき行われたとき、その決議に賛成した理事は、その行為をしたものとみなされています。理事になったからには、組合が理事に対して期待することを、法令等に照らし合わせて問題がない形できちんと運営していくということが期待されています。

例えば融資一つとってみても、融資により農家の経済的社会的地位の向上に資するか否か、融資から得られる利息収入、既存融資の回収の可能性のみならず、融資の持つリスクを的確に把握し、これに応じた適切な債権保全措置をとることが必要であり、融資を実行することの判断が著しく不当であるときには、貸付けを決定実行した理事は、善管注意義務等違反による責任を負うものと考えられます。融資をしたり、お金を出したりする場面では、きちんと意味のあるお金か、回収ができるもののかなど、情

報を収集して検討した上で判断が必要であり、それらを怠って深く考えずに融資をすることは、義務違反を問われる可能性があります。

不祥事未然防止体制の整備方法

コンプライアンスとは

役員は、組合内のコンプライアンス違反を防ぐための体制を整えることについても心掛けるべきです。コンプライアンスとは、一般に「法令遵守」と訳されているように、法令や各種の規制を遵守する組織の活動、あるいはそのための組織内における体制の整備を意味します。

そして、組合での不祥事の発生は、組合員や社会の人々の期待に反することの最たるものですが、当該不祥事が「法令違反ではなく、法的責任もない」という場合であっても、社会から大きな反発を受け商品・サービスの不買運動などが起こりかねず、組合の経営は危機に立たされます。このような点から、コンプライアンスは、単に法令等の規定に違反しないという意味にとどまらず、組織がより健全で適正な活動をしていくために、組織倫理の点にも目を向けて、より積極的な意味に捉えるのが一般的と考えられます。

つまり、「法的にはセーフ」ということではなく、不祥事と疑われるようなこと全般にきちんと組織内で管理する、不祥事が起こらないような管理体制をつくる、組織がきちんと運営できる形を作っておく、ということが大事になります。

不祥事未然防止体制の整備方法

コンプライアンスの積極的な意味とは、法令や規制に従うという受動的な姿勢だけではなく、その組織に所属する役員が一定の価値観や経営理念を共有し、それを日々の活動の中で実現していくという能動的な姿勢が求められます。

そのためには、まず、コンプライアンス体制の確立に向けた経営トップの強い意志と指導力が必要となり、役員は、コンプライアンスを重視しその実現を意識しているという明確なメッセージを組織内に伝達し続けることが必要となります。不祥事の未然防止も、倫理観の高い職場風土の醸成と内部統制が整備されている体制組織の確立にかかっています。

そして、そのためには、「不祥事が起こりにくい体制作り」、「不祥事の芽を察知できる体制作り」を整備することが重要です。風通しが良く、法令遵守ができている組織づくりというものを常に意識しながら運営していくことが本来あるべき姿です。

不祥事が起こりにくい体制作り

特に管理部門のチェックは、1人が不正を見逃した場合でもなお防止できるよう、2名以上で行うべきです。ダブルチェックをする担当者は、チェック対象書類などのある場所に赴いて直接確認を行うことが有用です。

取引に関しては、組合内記録が確実に記録されていれば、後に原因究明がしやすくなり不祥事が発覚しやすくなるため、結果的に不祥事発生の予防にもつながります。取引に関する組合内記録、つまり、文書の種別、作成責任者、保管方法、保管責任者、保管場所、コピーの可否、コピーの許可をいつ・誰にしたか、記録の持ち出しはいつ・誰によって行われたか、といった情報を記録しておき、管理することが重要です。

労務管理においても、無理な目標を設定させたり、従業員の士気を低下させるような実績管理等を行ったりしないことが、不祥事が起こりにくい体制作りに繋がります。しかし、厳格な懲戒制度がなければ、従業員が緊張感を保つことは難しくなる恐れがありますので、きちんとした懲戒制度の整備も重要です。

また、1人の担当者が長期間同一業務を担当する場面がありますが、リスク管理上の観点からは、その担当者が特定の業務を囲い込んでしまうことで周囲の同僚からは見えにくくなってしまおうという弊害があります。重大なリスクが発生する可能性のある部署については、担当者を定期的に異動させることが重要です。

できるだけ透明性が高いやり方をしていけば不祥事は起こりにくく、何か問題があった時でも、大きな問題になる前に解決できることもあります。できるだけ理想に近づけるように、それぞれの職員が何をどのようにやっているかが見えるような形、そして、記録に残るような形で仕事をしていくことが、不祥事が起こりにくい体制に近づく方法だと思います。

不祥事の芽を察知できる体制作り

組合で行われる監査には、検査部や監査室などの業務監査部門による監査と、監事による監査があります。業務監査部門による監査は、各部署での不正を防止・発見するために重要であり、監査の独立性を確保することが重要です。また、監査担当者の継続的な研修を実施し、内部監査士等の資格取得を励行することも有用でしょう。一方、経営陣側が不正を行ったような場合は、監事による監査となります。が、監事が単独で組合内の不祥事に関する情報を収集するには困難が伴います。そこで、監事が直接指揮命令できる監事監査をサポートする人員を整備することが望めます。

不祥事が起こった場合、それが「コンプライアンス違反にあたる」と認識できなければ、経営陣への報告に繋がりません。不祥事に直面した時にそれと認識できるよう、役職員のコンプライアンス意識を向上させる実効的な研修を行う必要があります。

また、コンプライアンス違反に気付いたとしても、不正を行っている上司などからの報復を恐れ、経営陣に報告ができないような場面があります。しかし、不祥事の情報が行政やマスメディアへ流れると、その対応に追われ適切な対応を行うことが困難になる恐れがあります。そこで、発見者が安心して不祥事情報を報告できるホットライン制度の整備が必要です。組合内の窓口だけでなく、外部窓口を設置することも有用です。

「コンプライアンス違反にあたるのではないか」と感じたことを速やかに経営陣や上司に相談できるような環境であれば、早い段階で不祥事の芽を摘み取ることができますので、職場全体の風通しをできるだけ良くすることが重要です。

不祥事の事後対応

不幸にして不祥事が発生してしまった場合は、ダメージを最小限のものとするための対応が必要です。この事後対応も、コンプライアンスの一内容と捉えるべきものと考えます。

不祥事を把握したら、すぐに組合長をトップとし、法務担当、広報担当、不祥事が起こった部署の調査担当の責任者などで構成される「危機管理チーム」を設置し、不祥事対応権限と情報を集中させることが必要です。事後対応のなかで最も重要なのは、5W1Hを中心とした事実調査です。この事実調査は、不祥事にかかわる書類、帳票類の分析、関係当事者へのヒアリングなどを行う必要があります。

調査を迅速に行い、行政などの監督官庁に報告を行うことも重要です。信用・共済事業の不祥事件は、行政への報告が義務です。仮に、法令上明確に報告義務があるわけではない種類のコンプライアンス違反であったとしても、調査を行ったうえで行政への報告を行うべきと考えます。行政に対し適切な報告を行うことが、後の行政処分の軽減や、役員が民事・刑事の責任を問われた場合の責任の軽減につながる人が多いからです。

不祥事が起こった場合、社会が最も注目するのは、不祥事を起こした者が受ける処分の内容です。徹底した事実調査を行い、その結果に則して処分を行う必要があります。また、いわゆるセクシャルハラスメントなどの場合には、被害者との関係においても適切な事後措置をとることが要請される場合があります。

不祥事の調査結果を対外的に説明するためには、調査結果を踏まえたポジションを固めることが重要です。しっかりとしたポジションを作ることができれば、顧客、取引先への説明、マスメディアに対するリリース文の送付などでも適切な対応が可能です。社会の理解や納得を得るために、組織のトップによる記者会見が必要になることもあります。その際、法的責任の回避だけを意識して、「法令違反にはあたりません」「偽装ではなく誤表示です」といった発言を強調すると社会から大きな反発を招くおそれがありますので、社会に理解、納得してもらうことができるポジションを固め、説明を行うことが不可欠です。

ランピースキン病の 防除対策

酪農家全戸にハエ幼虫成長制御剤を散布

昨年11月に国内で初めて発症が確認されたランピースキン病のこれ以上のまん延の防止策として、ふくおか県酪農業協同組合は、組合員全戸の農場で「ハエ幼虫成長制御剤（IGR剤）」の散布を3月より行っています。

わが国初のランピースキン病が発生した福岡県のふくおか県酪農業協同組合（中島清代表理事組合長、生乳出荷者138戸）では、ランピースキン病ウイルスを媒介する

といわれているサシバエ防除対策として「ハエ幼虫成長制御剤（IGR剤）」を、組合員全戸の農場への散布を決定。散布は、ふくおか県酪協が、福岡県、全酪連の協力を得て行うとしており、IGR剤を全酪連が一部提供し3月12日より散布を開始しました。

現在福岡県のランピースキン病は沈静化しており、県内に発症牛はいない状況が続いていますが、気温が

高くなりサシバエが活動を始める前に防疫対策を徹底し、ワクチン接種と併せて、新たな発生リスクを極力低下させることが狙いです。

福岡県ではランピースキン病発生後、まん延防止対策として発生農場より半径20km以内の農場に対しワクチン接種を推進し、これを受けふくおか県酪協も組合員に対しワクチン接種を推進しましたが、米国はワクチン接種県からの牛肉輸入を停止し、ワクチン接種県の牛は米国向け輸出牛肉取扱い食肉処理施設への搬入ができなくなりました。国内には、米国向け輸出牛肉取扱い食肉処理施設は17施設ありますが、その内九州

には9施設と集中していて、これらの食肉処理施設への持ち込み禁止は、家畜市場での取引に大きな影響を与えました。

福岡県内には家畜市場がないため、子牛や育成牛などは県外の家畜市場での取引が一般的で、家畜市場は米国への輸出問題が大きく影響し、発生農場の牛はもとより、ワクチン接種地域の農場からの出荷は自粛を求められ、酪農家は子牛の出荷ができず、滞留する子牛が酪農経営を圧迫して大きな問題となりました。

ふくおか県酪協では、滞留子牛の解決に向け福岡県内の肥育農家はもとより全酪連をはじめとする系統団体、九州外の家畜市場等へ協力を要請しましたが、対米問題から良い返

事はありませんでした。しかし、2月中旬には新たなランピースキン病の発生が無くなったこともあり、県内外の肥育農場や全酪連を通じた子牛取引の可能性が生じてきたところ、3月4日に農林水産省より「ランピースキン病ワクチン接種県由来の牛肉の米国輸出停止措置の解除」の朗報があり、家畜市場もほぼ制限なく出荷が可能となりました。

中島組合長は「家畜市場への出荷が可能となったとしても、新たにランピースキン病を発生させないことが重要。再発すれば、また家畜市場への出荷が出来なくなる恐れがあるので、防疫対策としてワクチンの接種とサシバエ対策は極めて大切な事である。」と述べています。





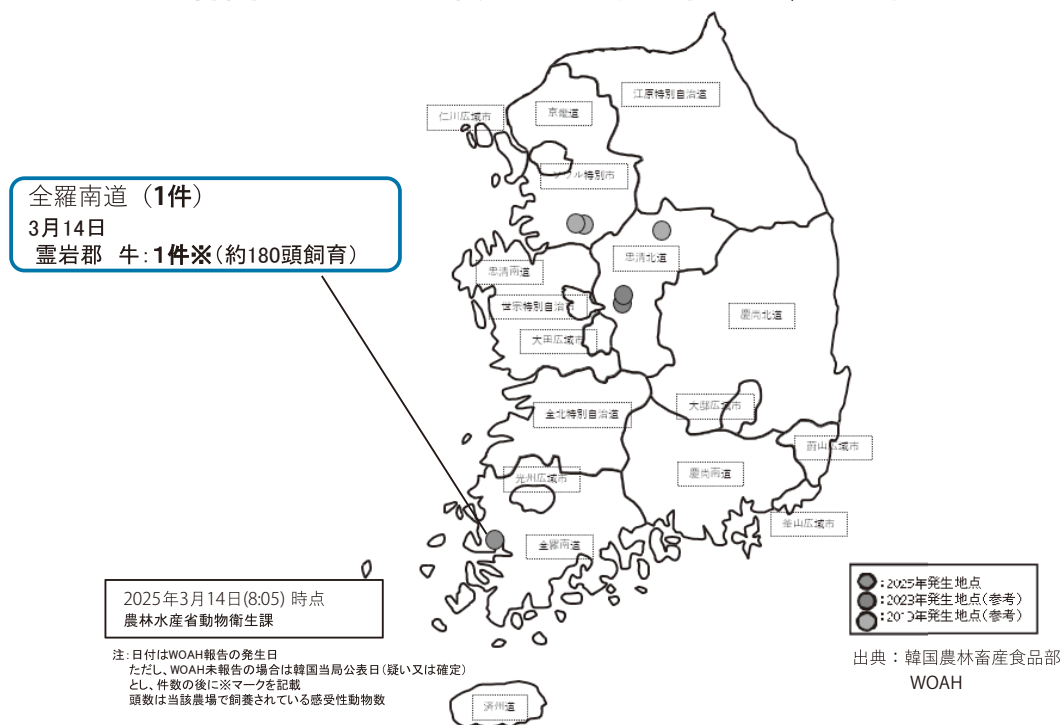
韓国で口蹄疫が発生！



今一度、発生予防を徹底しましょう！

韓国では、2025年3月に1年10ヶ月ぶりに口蹄疫の発生が確認されました。現在、我が国へ侵入するリスクが極めて高い状況が続いています。

韓国における口蹄疫の発生報告状況（2025年3月14日時点）



牛農家の皆様へ 発生予防の徹底をお願いします！

- ☐ 農場の出入口に看板を設置するなどにより、**関係者以外の立入を制限**しましょう。
- ☐ 農場の出入り時は、**専用の靴・衣服を着用し、手指を消毒**するとともに、持ち込む**物品**や**出入りする車両の消毒を徹底**しましょう。
- ☐ 畜舎の出入口に**専用の靴の着用や踏込消毒槽等**を設置することにより、出入りする人の**靴底の消毒を徹底**しましょう。
- ☐ 従業員の方も含め、**口蹄疫が発生している国への渡航は可能な限り控える**とともに、これらの国からの郵便物等は衛生管理区域に持ち込まないようにしましょう。
- ☐ **毎日、飼養家畜の健康観察**を行い、**疑わしい症状があれば直ぐに通報**しましょう。



専用の衣服・靴等の着用や効果的な消毒を実施しましょう！

- ・ 衛生管理区域に立ち入る場合には、**専用の靴や衣服**を着用し、**手指消毒**を実施しましょう。
- ・ 畜舎ごとに**専用の靴または踏込消毒**を設置し、使用しましょう。



専用の服や靴の使用、手指消毒

◎効果的な消毒のポイント

- ・ 踏込消毒槽の消毒液は、汚れで効果が薄れるので、**まずは汚れを落としてから消毒**しましょう。また、**消毒薬が汚れていたら、直ちに交換**しましょう。
- ・ 農場に出入りする車両を消毒する時は、**タイヤのみを消毒**するのではなく、**泥よけの内側部分まで消毒**し、衛生管理区域内で降車する場合は**農場専用のフロアマット等の使用**や**車内（ハンドルやドアノブ等）の消毒**を実施しましょう。



推奨される踏込消毒槽の設置方法！

②消毒液の槽

①水洗の槽



汚れをしっかりと落としてから消毒



車両はタイヤだけでなく、**泥よけの内側まで消毒**し、**フロアマットの交換**や**ペダル等車内も消毒**

《要注意》

- ★ 逆性石けんやアルコールは口蹄疫の消毒薬としては不適です！
- ★ 消毒効果が弱まるので、**酸性とアルカリ性の消毒薬を同時に使用しないこと！**

疑わしい症状は直ちに通報を！

口蹄疫は牛や豚などで発熱や食欲不振に始まり、後に**泡状のよだれ**を流したり、**口、ひづめ、乳房に水疱（水ぶくれ）**ができるのが特徴です。

＜A型口蹄疫ウイルスの感染実験の結果＞

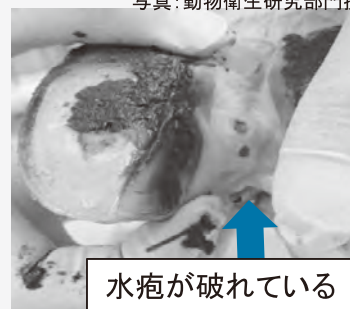
～牛の症状～

写真：宮崎県提供



上顎口唇潰瘍

写真：動物衛生研究部門提供



水疱が破れている

毎日必ず健康観察し、これらの症状を見つけ次第、直ちに**獣医師**や最寄りの**家畜保健衛生所**に**連絡**しましょう。

牛では、**1頭のみに着目せず**、泡状のよだれを多く流している個体が多い、上記の症状が急速に広がるなど、**群としての異状の有無を確認することが重要です。**

口蹄疫に関する最新情報は、農林水産省のHPをご確認ください。

→ https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/index.html



日本酪農 見と未来紀

No. 382

(株) aLde Farm
(アルデ ファーム)

長野県伊那市

経営基盤は長命連産と 自給粗飼料の確保！

今回は伊那酪農業協同組合（小松平一代表理事組合長、長野県伊那市）に所属される、網野雄二さんの牧場を訪問しました。

地域の紹介

長野県伊那市は同県の南東部に位置します。面積は667km²で、長野県内では松本市、長野市に次いで3番目に大きい市です。人口は6万3千人。市内を流れる天竜川や三峰川沿いには平地もありますが、全体として緩やかな丘陵地が続きます。

東には南アルプス山脈が、西には中央アルプス山脈が広がる風光明媚な伊那市は、観光地として根強い人気があります。また、3,000m級の高い山々に囲まれていることもあり居住圏の標高も高く（伊那市役所は標高632m）、緩やかな丘陵地とともに昼夜の寒暖差を

活用した果樹や野菜の栽培が盛んです。



長野県伊那市

牧場の概況

牧場の牛舎は昨年6月に新築されたものです。搾乳頭数は45頭から54頭



▲ 牛舎外観



▲ 網野雄二さん



▲牛舎内

に増頭しスタート、ゆくゆくは72頭まで搾乳頭数を揃える予定です。
また、今年1月から経営を法人化されました。牧場の名称は『(株)alde Farm (アルデファーム)』です。名称の由来は星座の一つ「おうし座」で最も明るい恒星「アルデバラン (Aldébaran)」

です。オレンジ色に輝くアルデバランは牡牛の目の位置となり、冬の夜空ではひとときわ見つけやすい美しい1等星です。

新しい牛舎は、当初はクラスター事業で建てる構想でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大による乳製品の消費低迷(脱脂粉乳の過剰在庫等)により、クラスター事業は「生乳生産の増加」から「自給飼料基盤の強化」へと要件が変わりました。

そのため、増頭＝生乳生産の増加につながる網野さんの牛舎建設は採択されず、自給飼料を活用する飼料調整機器の導入だけクラスター事業に採択となっていました。

このため、新しい牛舎は自己資金と借入金で建てることとなりました。幸いにも牛群検定で優れた成績を残していたこと、綿密な経営シミュレーションを用意したことから有

利な借入れを得ることができたそうです。

クラスター事業を使えないことは、結果的には牛舎建設の自由度(追加設備や改修等)を高めました。広い通路と高い天井は作業性が良く、大きな窓と適切に配置されたファンとミストに

よる暑熱対策も万全です。バルクや搾乳機器を置く部屋も広く、衛生的で効率的な作業性が配慮されています。また、牛舎全体が広いので、今後の設備の追加や改修も容易に可能な造りとなっています。

長命連産の維持

新しい牛舎では搾乳牛54頭からスタートしました。導入時の事故も少なく、食滞もなく、想定以上に早く軌道に乗れたそうです。後継牛も自家育成を基本としています。

牛群の能力的には35kg/日も十分に可能だということです。高泌乳



▲搾乳機器

管理によるストレスと繁殖障害は更新率を高めています。

「今は2、3産の経産牛が牛群の主体、5産もいるがまだ少ない。これを5産くらいまでしっかりと頭数も残し、牛群として長命連産を維持したい。そのような飼養管理、給与設計を心掛けています。」

そして、長命連産とともに網野さんが酪農経営の基盤とするのが自給粗飼料です。

自給粗飼料の十分な確保

「新しい牛舎を建てるにあたって、搾乳頭数72頭という数字は「自給粗

飼料が十分に給与できる頭数」として決めました」と話す網野さん。

現在、牧草（永年草）14ha、デントコーン10・5ha、他に裏作（イタリアンライグラス等）11haで自給粗飼料を収獲しています。

常に堆肥が足りないくらいだというこれら草地ですが、昨年は天候にも恵まれ牧草もデントコーンも十分な数量かつ品質の良いものが収獲できたそうです。

悩みは鳥獣被害。山岳に囲まれていることもあり、クマ、イノシシ、キツネは普通（？）に人里へと出没してくるそうです。



▲ ミキサー

昨年は、草地の一部で普及セクターの実験圃場としてソルガムを栽培しています。生育も順調だったということで、網野さん自身も育成用の自給粗飼料として使いたいと考えているそうです。

県内有数のコントラ組織

高品質な自給粗飼料を得るには、収獲の適期に短時間で刈り取り素早く調整・処理することが必須です。それを可能にするのが大型作業機です。

網野さんが副組合長を務めるコントラ組織「ますみヶ丘フォルト組合



▲ 収獲作業（追隨するトラックが小さく見えます）

（正組合員7名）でも、大型作業機の導入により素早く効率的に収獲作業を行っています。

写真にあるデントコーンの自走式ハーベスタ（CLAS社「JAGUAR」）はメルセデスの12ℓエンジンで500馬力以上のパワー。写真のとおり、並走しているトラックが小さく見えるほどの大型の自走式ハーベスタです。（同型の自走式ハーベスタがあるのは県内では唯一だそうです。）

大きいので操作も難しそうですが、運転席の直下も見える視認性の良さやタッチパネルと制御レバーの操作性の良さから、オペレーターへの操作負担は驚くほど少ないとのこと。



▲ 視認性の良い運転席

とです。

こうした大型作業機の導入によりコントラ組織としての収獲処理能力も上がり、今では長野県内だけでなく、愛知県にもデントコーンサイレージ（ラップ）を安定供給するま

でなっています。今回、網野さんにはお忙しいところを快く取材を引き受けていただきました。

伊那という地の利を活かし、長命連産と自給粗飼料の確保を基盤とする網野さんの酪農経営にますます期待したいと思います。

『Sale de Farm』のますますの発展を祈念しております。



▲ 収獲作業

東京
支所発「第52回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会」開催
関東甲信越代表は前田匡彦さん、秋山淳子さん

関東甲信越酪農青年女性会議（月田宗太委員長）は、3月17日(月)～18日(火)の2日間、栃木県那須町「ホテルエピナール那須」において、関東甲信越管内の酪友・関係者181名の参加を得て、第52回酪農発表大会を開催しました。

大会は、和泉正行副委員長（栃木県）の総合司会、藤田幸子副委員長（茨城県）の開会宣言による綱領唱和で始まりました。

その後は月田委員長より主催者の挨拶があり、来賓として農林水産省関東農政局生産部畜産課の川本博康課長（酪農経営発表の部・審査委員長）、栃木県農政部畜産振興課の谷山和雄課長、栃木県酪農協会の臼井勉会長よりご祝辞をいただきました。

本大会では地元栃木県での動員が多く、栃木県内の農業大学校や農業高校からも多数の学生に参加していただきました。

審査の結果、酪農経営発表の部では栃木県酪農青年女性会議の前田匡彦さん（栃木県酪農業協同組合）が、酪農意見・体験発表の部では埼玉酪農婦人部の秋山淳子さん（埼玉酪農業協同組合）が最優秀に選出されました。

なお、前田さん、秋山さんは、7月に岡山市内で開催されます第52回全国酪農発表大会において、関東甲信越代表として発表されます。

全国大会でのお二人のご活躍をお祈りしています。
(I.F)



名古屋
支所発

「第52回中部酪農青年女性酪農発表大会」開催

中部酪農青年女性会議（西尾直樹委員長）は、3月13日(木)に、静岡県浜松市「グランドメルキュール浜名湖リゾート&スパ」において、「第52回中部酪農青年女性酪農発表大会」を開催しました。豚コレラやコロナ禍などにより、WEBや規模縮小での発表大会が続いていましたが、8年ぶりの通常大会の開催となり、中部管内の酪友や関係者62名が参加した大きな大会となりました。

大会は、地元の久保田豊委員が総合司会を務め、高橋明美副委員長の開会宣言に続き、北谷記啓副委員長による綱領唱和で幕を開けました。

来賓には、農林水産省関東農政局生産部畜産課の川本博康課長（酪農経営発表の部・審査委員長）、静岡県経済産業部農業局畜産振興課の手塚喜代美課長（酪農経営発表の部・審査委員）、また浜名酪農協同組合の佐藤忠明代表理事組合長を招き、それぞれにご祝辞をいただきました。

審査の結果、酪農経営発表の部では、伊藤志穂子さん（浜名酪農協同組合）、意見・体験発表の部で

は、村岡悦史さん（三重県酪農農業協同組合）がそれぞれ関東農政局長賞を受賞されました。

表彰式後、昨年1月1日に発生した「能登半島地震」について、自身も被災された久保貴光委員より、能登の現状についての報告を行いました。まだ手付かずの現場も多く、復興へはまだ遠い道のりです。また、9月の豪雨による新たな被害もあり、これからもたくさんの協力が不可欠だと思います。

また、西尾直樹委員長による「沖縄視察研修」の報告も行いました。

大会後の懇親会では、久しぶりに多くの酪友が集まったことで、大いに盛り上がりました。このような場は地域やブロック、全国の酪友が元気を渡したり受け取ったりする大切な場であることを改めて感じました。

なお、伊藤さんには、7月に岡山市で開催される第52回全国酪農発表大会において、中部会議代表として発表していただきます。全国大会でのご活躍を期待しております。（S.M）



▲ 伊藤志穂子さん(経営の部)



▲ 来賓挨拶(佐藤組合長)



▲ 村上悦史さん(意見体験の部)



日本酪農
政治連盟

酪政連活動報告

令和7年1月～3月

2/14 監事監査（於 全国酪農協会会議室）

2/17 広島県酪農政治連盟要請活動に随行（於 衆議院議員会館）

2/20

事務局長・事務局担当者会議（於 自由民主党会館会議室）

令和7年度通常総会議案書内容の説明、および農林水産省牛乳乳製品課 平田裕祐課長補佐より
令和7年度酪農関連対策について説明。



▲ 農林水産省牛乳乳製品課 平田課長補佐



三役会議、中央委員会、通常総会、中央常任委員会（於 自由民主党本部）

令和7年度通常総会は41 会員 80 名出席。上程した議案はすべて承認された。

なお、総会終了後の中央常任委員会において役員互選が行われ、

以下の通り5 人目の副委員長が選任された。

副委員長 佐藤 哲（新任）



▲ 佐藤副委員長



▲ 柴田委員長



3/5

自由民主党酪政会との懇親会（於 自由民主党本部）

酪政会 森英介会長、自由民主党 森山裕幹事長、自由民主党 鈴木俊一総務会長 他、
沢山の議員よりご挨拶を頂いた。

議員 82 名（代理含む）が出席。



▲ 酪政会 森会長



▲ 自由民主党 森山幹事長



▲ 自由民主党 鈴木総務会長



3/10

自由民主党政治資金規正法勉強会参加
（於 自由民主党本部）



次期酪肉近

生乳生産目標数量732万tに設定
消費拡大や需要に応じた生産に



農水省は3月17日、省内で食料・農業・農村政策審議会畜産部会を開き、5年後を目標とした生乳生産量など新たな「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針（以下、酪肉近）」の本文案をめぐり議論。全国における令和12年度の生乳生産目標を令和5年度実績並みの732万tとした（写真は2月20日の部会）。その上で概ね10年後の長期的な姿として、現行目標の780万tを設定した。

牛乳乳製品課の須永新平課長は「長期的な姿は概ね10年を想定しているが、今後の需給状況なども踏まえながら進める必要

がある。期限と特定しているものではない」と説明。その上で「今後人口減少が進み需要が低下することが予測される中、需要拡大にしっかりと取り組む。それを踏まえ、5年後の生産目標も毎年しっかりと検証し、その

先に780万tという数字がある。まずは5年後に向けて需要拡大にしっかりと取り組み、需要の状況をよく見て、毎年検証しながら進めていくことが重要」との考えを示した。

（3月20日号）

酪政連・7年度運動方針

生乳需給安定、自給飼料増産
高校生の飲用推進等に支援要請

日本酪農政治連盟は3月5日、都内で中央委員会及び通常総会を開き、令和7年度運動方針など全議案を原案通り承認した。来年度も引き続き生乳需給調整対策や国産自給飼料の増産、高校生への牛乳飲用推進等に対する支援確

保に向けて要請活動を展開する。また、役員補選では、副委員長を現行の4人から5人体制へと増員した上で、新副委員長に佐藤哲氏（元委員長、北海道酪農協会会長）が選任された。

（3月10日号）

農水省が通知発出

クロスコンプライアンス導入
全国的な需給調整へ周知図る

全国的な需給調整の取組を要件とするクロスコンプライアンス（以下、クロコン）の令和7年度からの段階的な導入につい

て、農水省牛乳乳製品課は2月28日、概要や運用方法等を記載した通知を指定団体、自主流通事業者等へ発出した。合わせて

説明資料として、対象となる補助事業や申請時の提出書類、拠出要件等をまとめたパンフレットを作成。3月中旬に、関係団体や自主流通事業者等を対象としたオンライン説明会を開催するほか、申請手続きに関するQ&Aも公表し、制度の周知徹底を図る。

クロコン導入の対象となる補助事業は、現時点で①国産チーズ生産奨励等事業②生乳流通改善緊急事業③バター・脱脂粉乳需給不均衡改善緊急事業④中小酪農等対策事業⑤乳用牛長命連産性等向上緊急支援事業⑥酪農労働省力化対策事業⑦畜産・酪農収益性強化整

備等特別対策事業（畜産クラスター事業）⑧ICT化等機械装置等導入事業（畜産ICT事業）——を想定。8事業以外の補助事業については今後事業の実施状況等を踏まえ、対象とすらかどうか検討を行う。

拠出先の事業は、Jミルクが25年度より新たな基金を造成・

申請時の提出書類

クロスコンプライアンスの対象である補助事業への申請時等に、チェックシートを補助事業者へ提出してください。

なお、農林水産省や補助事業者等が、拠出実績の確認資料（乳代精算書、拠出金の領収書、請求書）の提出を求めています。（これを拒否した場合、要件を満たしていないと判断されます。）

拠出先事業

（一社）Jミルクの酪農乳業需給変動対策特別事業を想定。

拠出要件（詳細）

（1）令和7年4月以降、申請する場合（対象事業：文中①～④の事業）
・拠出の意思を有していること

（2）令和7年12月以降、申請する場合（対象事業：文中①～⑧の事業）
・補助事業の申請月の前々月までの12か月分の出荷乳量に基づき、継続して拠出金を納付していること
・ただし、令和8年10月以前に申請する場合には、令和7年10月以降、申請月の前々月まで継続して拠出金を納付していること



（3）施設整備・機械導入の場合（対象事業：文中⑥～⑧の事業）
・各補助事業が規定する成果報告の時まで継続して拠出していること

全酪新報

- 人が牛乳を必要とし、牛肉を必要とし、緑を必要とする限り、酪農は誇り高い永久の仕事です。
- 明日へ向かって前進する酪農界の動きを全酪新報は正確に報道します。時に怒りの声を、時に喜びの声を…幅広くお伝えします。
- ご家族でご愛読いただける酪農専門紙です。
- 毎月1日、10日、20日発行、年間購読料は6,600円（税込・送料込）です。

- お支払（請求書到着後）は、郵便振替、銀行振込、クレジットカード決済がご利用いただけます。
- 見本紙ご希望の方はお申し出下さい。無料です。（見本紙にバックナンバーは含まれません）

全酪新報/
購読お申込フォーム



一般社団法人 全国酪農協会

電話 03 (3370) 7213
www.rakunou.org

開始する「酪農乳業需給変動対策特別事業」が想定されている。申請時の提出書類や拠出要件の詳細は図を参照。（3月10日号）

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

人事異動

新	旧	氏 名
■令和7年4月1日付異動発令 酪農部 酪農企画課長 兼 生乳共販課長	仙台支所 次長 兼 酪農課長	近 藤 宏
■令和7年4月1日付昇進発令 総務部 部長 兼 人事室長 購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)東海工場 総務課長代理	総務部 人事室長 購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)東海工場	飯 島 洋 一 長谷川 航 平
■令和7年4月1日付兼務発令 購買生産指導部 酪農技術研究所長 兼 復興牧場準備室長 購買生産指導部 酪農技術研究所 酪技研移転準備室長 兼 研究員 東京支所 総務課長 兼 指導組織課長 仙台支所 支所長 兼 酪農課長	購買生産指導部 酪農技術研究所長 購買生産指導部 酪農技術研究所 復興牧場準備室長 兼 研究員 東京支所 総務課長 仙台支所 支所長	猪 内 勝 利 小 橋 有 里 薄 井 康 蔵 渡 邊 和 典
■令和7年4月1日付兼務解除発令 酪農部 部長	酪農部 部長 兼 酪農企画課長 兼 生乳共販課長	岩 本 仁 志

全酪連2025年の ニューフェイスが集結！

4月1日(火)、全酪連本所 酪農会館（東京都渋谷区）において令和7年度新入職員入会式が行われ、今年度は、大学卒業が21名、高校卒業が2名入会しました。
これからよろしくお願いいたします。



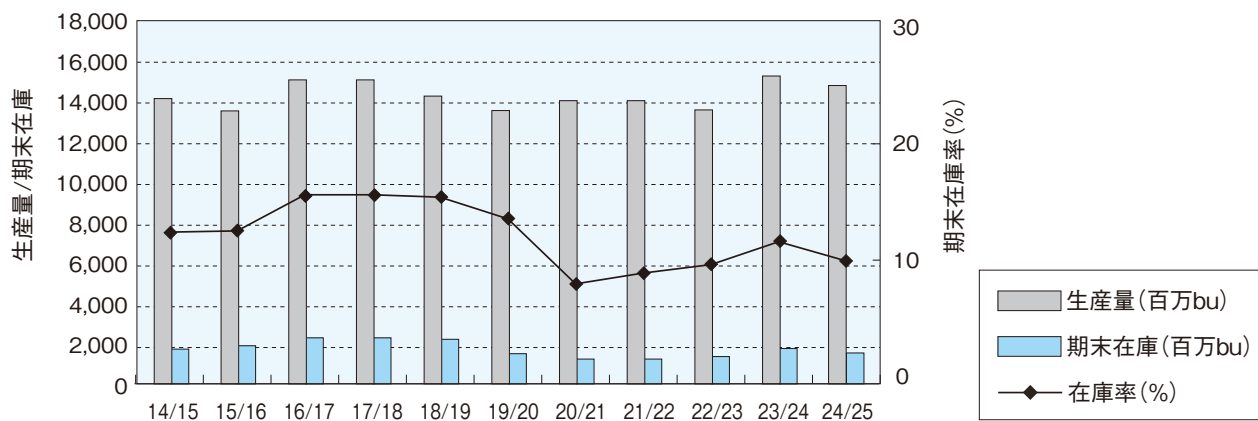


原料情勢

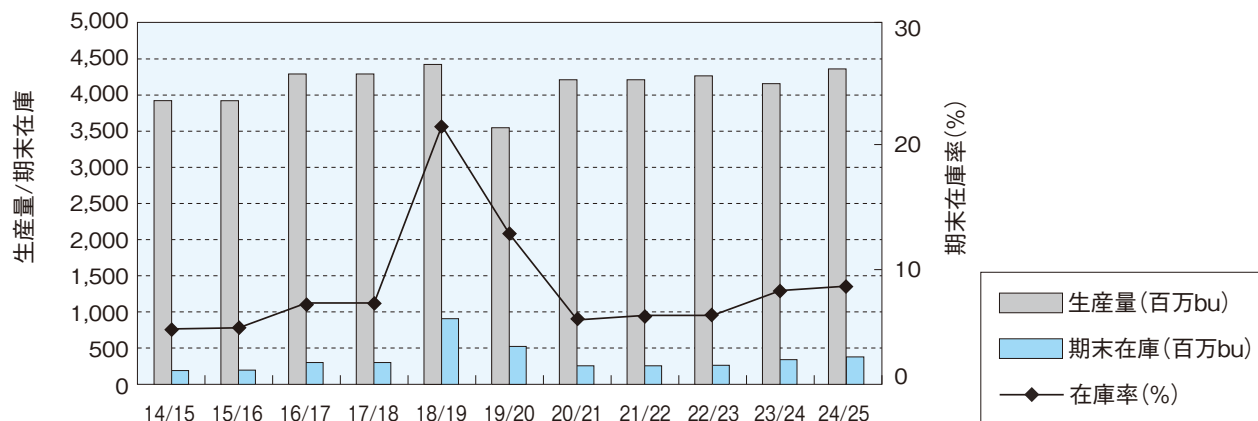
令和7年3月

3月11日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		23/24年産	24/25年産
	作付面積(百万エーカー)	94.6	90.6
	単 収(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3
	生 産 量(ブッシェル)	153億4,100万	148億6,700万
	需 要 量(ブッシェル)	149億6,600万	151億1,500万
	期末在庫(ブッシェル)	17億6,300万	15億4,000万
	在 庫 率	11.78%	10.19%
トウモロコシ 相場動向	今回の需給報告で据置発表となり、ほぼ予想通りの結果となった。このためシカゴ定期への影響はあまりなく、今後は南米の生産見通しや米国の来期作付面積が相場に影響する材料になると思われる。		
大豆粕相場動向	米国・ブラジルの豊作を背景にシカゴ相場は弱含みに推移しているが、南米大豆収穫遅延に伴う中国への南米産大豆の入船遅れから、中国産の需給が逼迫しており産地価格は高騰している。中国の一部搾油工場でも、操業停止する噂も流れており中国での生産が減少すれば相場上昇の要因となるため注意したい。		
糖 類	【一般フスマ】 ふすまは引き続き飼料需要が低調で、小麦粉挽砕量は増えていることから受渡しは安定する見込み。		
	【グルテンフィード】 飼料需要が引き続き堅調な一方で、主製品の発生期であることから受け渡しは安定する見込み。		
海上運賃	米国が入港する中国関連船舶に課税する方針を示しており先行きは不透明ではあるが、中国以外で建造された船舶のオーナーは強気に交渉できる環境となっているため海上運賃は堅調に推移している。今後は、入港税に関する動きには注視する必要がある。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



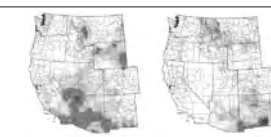
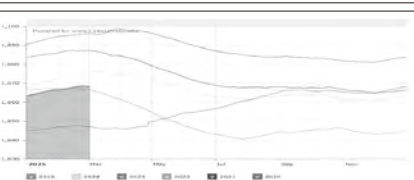
米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和7年3月

北米コンテナ船情勢	北米西海岸を中心とする航路では、本船スケジュールに乱れが生じており、主要な乗継航路を含めた混雑が続いています。クリスマス商戦や年末年始の貨物量の増加による影響で、慢性的な混雑は徐々に解消されつつありますが、いまだに一部の航路や港湾では遅れが発生しており、完全に海運情勢が安定するには時間がかかる可能性もあります。中国では旧正月が終了したことで、物流の回復が見られるものの、旧正月中に多くの本船が滞留していたため、荷役作業に遅れが出ることが予想されています。また、日本国内においては、ゴールデンウィークに向けた船積みが始まっており、国内の主要港を中心に、更なる港湾の混雑を引き起こす可能性があるため、今後の動向には注視が必要です。さらに、米国では、トランプ大統領が就任以来、複数の関税措置の発動を表明し、各国と貿易に関する協議を行ってきましたが、3月に入ってもその方針を維持し、追加関税を続ける意向を示しています。この追加関税の方針は、米中間の貿易摩擦を一層激化させる恐れがあり、世界全体の貿易関係にも悪影響を及ぼす可能性があります。これにより、海運業界の安定にはさらに時間がかかるとの予測が立てられており、今後も関税措置が与える影響に対して業界全体で慎重に対応していく必要があります。
ビートパルプ	ノースダコタ州やミネソタ州をはじめとする主要なビートパルプの生産地では、2024-2025年産の生産と製糖作業が終盤を迎えています。これらの地域では、製糖の工程もほぼ完了し、収穫後の処理や出荷準備が進められる段階に入っています。一方、他の生産地では、5月下旬頃まで収穫や製糖作業が続く見通しです。また、一部の生産者は、関税措置や不安定な輸出市場に対する懸念を抱えており、将来の収益に対する不安から早急に利益を確保しようとしています。そのため、早期に新穀の販売を開始している生産農家も多く見られ、輸出市場での価格動向に影響を及ぼす可能性も予想されています。
アルファルファ	米国農務省 (USDA) および全国農業統計局 (NASS) が発表した2024年のデータによると、米国西岸北部 (PNW) 地域における生産量は前年から大きく減少しました。主要な生産州であるオレゴン州、アイダホ州、ワシントン州の生産量は、いずれも前年に比べて大幅な減少を示しています。オレゴン州は前年比97%、アイダホ州は86%となった一方で、ワシントン州では前年比78%という大幅な減少となっています。この減少には、いくつかの要因が複合的に影響していると考えられています。まず、米国内での需要が低迷しており、その中でも特に酪農向けからの引き合いが弱くなっていることが挙げられます。アルファルファは主にたんばく源として用いられるため、酪農家の経営状況に直結する影響を受けます。昨今の経済的な事柄や価格の不安定さ、代替飼料の選択肢が増加したことが、需要の低下に繋がったとされています。さらに、輸出市場も低迷しており、輸出先として重要なアジアや中東での需要が減少し、市場価格が下落しました。価格の低迷は生産農家にとって大きな痛手となり、利益を確保するために他作物への転作が進んだことが、最終的に生産量の減少に繋がっています。生産農家は安定した収益を得るために、より高収益な作物へとシフトしているという状況です。これらの要因により、PNW地域全体での生産量は大幅に減少しました。市場が回復するためには、国内外の需要が改善し、相場が安定することが重要ですが、現状ではその回復には時間がかかると予測されています。また、気候条件や農業政策が今後の生産に与える影響も注視されるべき課題となります。 【カリフォルニア州】 カリフォルニア州南部のインペリアルバレーでは、2025年産のアルファルファ1番刈りの収穫がすでに始まっており、早い圃場では3月中旬から下旬にかけて2番刈りの収穫に進む見通しです。灌漑局の発表によると、2月15日時点でのアルファルファの作付面積は147,431エーカーとなっており、前年同期の146,431エーカーから1,000エーカー増加しています。作付面積の増加は、暖冬の影響を受けて、農業環境が比較的良好だったことが背景にあると考えられます。
チモシー	【米国産】 産地では、米国内外からの馬糧向けの需要が引き続き順調に進んでいるため、産地価格は安定し、多くの産地在庫はすでに売約済みとなっています。また、2025年産の作付面積は、産地価格が好調なことを背景に増加する見通しです。需要が安定している中で、農家は市場の好調さを受けて作付面積を拡大し、供給の増加に対応しようとしています。 【カナダ産】 主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区および南部レスブリッジ地区では、2月中旬に氷点下10℃～20℃の日が続きましたが、3月に入っても氷点下を下回る日が続く見通しです。これにより、農作物の生育や作業に影響が出る可能性があります。また、気温の低下が続くことで、出荷スケジュールにも影響が及ぶ恐れがあり、降雪による道路状況や物流の遅延が懸念されています。日本向けの需要に大きな変化はなく、出荷は順調に続いています。需要が安定しているため、出荷量に大きな影響はありませんが、天候による物流面の課題には注意が必要です。2025年産の作付面積については、競合作物の相場が低迷しているため、大きな増減はない見通しです。
スーダングラス	カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、2025年産のスーダンの播種作業が3月中旬から開始される予定です。一部の輸出業者が保持していた2022年産や2023年産の旧穀在庫を解消しつつあるため、2025年産の作付面積は、2024年産に比べてほぼ同程度か、若干の増加が見込まれています。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 灌漑局の発表によると、2025年2月15日時点でのクレイングラスの作付面積は22,768エーカーとなっており、前年同期の21,378エーカーから増加しています。韓国向けの輸出は依然として好調に推移しており、この需要が今後も続けば、2025年産の相場に大きな影響を与える可能性があります。
米国西部州の干ばつ状況およびミード湖の水位について	現在、米国の北部であるワシントン州やオレゴン州では積雪や降雨があり、乾燥状態が改善されています。一方、南部のカリフォルニア州やアリゾナ州では降雨がほとんどなく、乾燥した気候が続いており、干ばつが悪化しています。米国内の需要に大きな変化は見られないものの、乾燥状態が続くことで供給面に影響を及ぼす可能性はあります。現時点では干ばつによる相場上昇の懸念はそれほど高くはなく、需給バランスは安定していますが、今後の天候や乾燥の進行具合によっては、相場に変動が生じる可能性もあり、今後の動向については注視が必要です。特にカリフォルニア州やアリゾナ州の乾燥が続く場合、水資源の枯渇がさらに進行し、農作物の生産に影響を与える可能性があるため、その後の雨量や気象予測に注意を払いながら市場の動向を見守る必要があります。2020年から2025年3月現在までのミード湖の貯水量の推移(単位: フィート)を振り返ると、特に2023年にはロッキー山脈からの雪解け水やハリケーンによる降雨の影響を受けて、ミード湖の水位は上昇しました(右図の紫線)。しかし、2020年(茶線)や2021年(青線)と比較すると、全体的には水位は依然として低水準のまま推移しており、改善の兆しは見られたものの、水位は十分に回復していないことが分かります。2024年にはミード湖の水位減少を抑えるための対策として、節水を目的としたDIP (休耕地政策) が開始されました。この政策は、水の消費を減らし、長期的に水源を守るための重要な取り組みですが、現時点では水位に大きな変化は見られず、依然として横ばいの状況が続いています。このため、ミード湖の水位回復には時間がかかり、引き続き水問題は長期的な課題であることが伺えます。  (西海岸の干ばつ状況の比較。色が濃くなるほど、干ばつ状況が厳しい) 左: 2025年2月27日 右: 2024年2月28日 出典: National Drought Mitigation Center  (出典: https://www.lakesonline.com/ より)
バミューダ	2024年産の生産は終了しています。灌漑局の発表によると、2025年2月15日時点での作付面積は76,815エーカーとなっており、前年同期の66,347エーカーから増加しています。この増加は、種子相場の好調や馬糧向けの需要が堅調に推移していることが背景にあります。特に、馬糧市場の需要の安定性が作付面積の増加を後押ししています。ただし、作付面積が増加しているに関わらず、生産量については減少する見通しです。これは、DIPに参加する生産農家が一部存在するため、その結果、作付面積が増加しても、実際の生産量は減少する可能性が高いと見られています。このように、需要が堅調である一方で、生産量の減少が予想されるため、市場価格や供給状況に変動が生じる可能性があります。
豪州産 オーツハイ・ウィートストロー	【豪州産】 2024年産オーツハイは、地域によって降雨の状況が異なり、作柄に影響を及ぼしましたが、総じて、上級品の発生は少なく、低級品も限定的でした。このため、一部の輸出業者は低級品の供給を補うために、オーツハイとストローをブレンドして出荷しています。各産地では、2025年産の播種に向けて生産農家との協議が始まっていますが、現時点での作付面積は昨年並みで、特に大きな増減は予想されていません。降水量や天候条件が重要な要素となるため、今後の気象状況が作付面積に影響を与える可能性はありますが、現段階では生産量の大幅な変動はない見通しとなっています。南豪州や東豪州では、1月～2月にかけて降水量が少なく、土壌の水分が低下しています。これに対して、西豪州では平均的な降水量があり、生育にとっては比較的良好な条件が続いています。さらに、3月から5月にかけては、全豪の生育地域で例年並の降水量が予想されており、今後の生育にとっては安定した気候が期待されています。ウィートストローについては収穫作業が終了しており、生産期間中の猛暑や降雨の影響を受けましたが、輸出向けには西豪州からの出荷が見込まれています。発生量は限定的であり、需要は堅調に推移しています。



in
岡山

第
52
回

全国酪農青年女性 酪農発表大会

令和7年
7/17 木
18 金

日程

7月17日 木

13:00~13:50 開会式
13:55~16:15 酪農経営発表
16:15~16:25 らくのうこどもギャラリー表彰式
16:40~18:15 酪農意見・体験発表
19:30~21:30 懇親会

7月18日 金

9:00~ 特別講演
10:20~11:40 審査講評・表彰式
11:40~11:50 閉会式

大会参加費

1名 **5,000円** (大会のみ) 1名 **15,000円** (大会・懇親会)
※宿泊につきましては、各地域会議事務局にお問い合わせください。

大会会場・アクセス

会場

「ホテルグランヴィア岡山」
〒700-8515
岡山市北区駅元町1-5
Tel 086-234-7000



アクセス

●鉄道の場合
JR岡山駅2階からホテル直結。
中央改札口から徒歩1分。
●車の場合
山陽自動車道 岡山ICから
約25分。
●飛行機でお越しの場合
岡山桃太郎空港より車で
約30分。



特別講演



ヨーグルトマニア (一社) ヨグネット 代表理事 **向井 智香氏**

講演内容 土着の乳の保存手段として数千年の歴史を持つ発酵乳ですが、日本の食文化に本格的に取り入れられたのはここ数十年のこと。商品の付加価値として工業的に取り入れられた側面が強く、菌の働きによる健康面へのアプローチが市場を賑わせています。本講演ではヨーグルトが日本の食文化として成熟する上で重要な要素として取り扱われるべき「乳」と「クラフトマンシップ」に焦点を当て、消費者とともに日本の農の未来を作る食の在り方について考察します。

プロフィール SNSで3,100種類超のヨーグルトをレビューするヨーグルトマニア。全国の牧場・乳業メーカーを巡って独自に収集した情報をもとに、ヨーグルトにおける「乳」の魅力発信に力を注ぐ。
2022年「ヨーグルトの本」(エムディーエヌコーポレーション)著。
2023年 一般社団法人ヨグネット設立。

大会事務局

全国酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
全酪連 総務部 組織対策課 内 / TEL. 03-5931-8003

作品募集のお知らせ

第51回 うくのう こどもギャラリー

① 募集規定

- (1)酪農を中心とした題材の図画（大きさ、技法は自由）
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、**題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。**また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。
- (4)作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

② 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

③ 締切日

令和7年5月30日(金) (必着)
または、各地域会議締切日に準ずる。

④ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。

⑤ 審査結果の発表

「第52回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。

⑥ 褒賞

- ・特選 1点
- ・入選 4点
- ・秀作 若干
- ・ファミリー賞 若干
(牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます)
- ・あすなろ賞 若干
(小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます)

◎入賞者には記念品を贈呈いたします。

◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。



第50回 特選
「元気な牛」
菊地遼空さん

第15回 酪農いきいき フォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

① テーマ

- (1)「乳牛のいる風景」
- (2)「酪農作業風景」

※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。

② 募集規定

- (1)写真は可能な限りデーターで提出してください。
- (2)自作で未発表のものに限ります。
- (3)作品には、**題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。**
- (4)応募点数：お1人様1作品のみ

③ 応募資格

酪農家

④ 締切日

令和7年6月30日(月) (必着)
または、各地域会議締切日に準ずる。

⑤ 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性会議事務局宛に提出してください。または、全国酪農青年女性会議公式LINEでも応募可能

予定です。
詳細は決まり次第、全国酪農青年女性会議公式LINEで告知します。

酪農青年女性会議
公式LINE

@642bpcwk



第14回 特選「おうちへ 帰ろう」
茂木幹司氏 撮影

⑥ 審査方法

応募作品を「第52回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。

※応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。

⑦ 審査結果の発表

- (1)「第52回全国酪農青年女性酪農発表大会」にて発表します。
- (2)「全酪連会報」の表紙に使用します。(号数未定)

⑧ 褒賞

- ・特選 1点
- ・入選 若干

◎入賞者には賞品を贈呈いたします。

◎提出していただいた作品の返却はいたしません。

◎応募していただいた作品は、全酪連会報およびカレンダーへの掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動(「父の日に牛乳を贈ろう」キャンペーン含む)等で使用することがありますのでご了承ください。

提出先一覧

●北海道酪農青年女性会議

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1
酪農センター5階 全酪連札幌支所内
TEL 011-241-0765

●東北酪農青年女性会議

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町
2丁目10番28号 カメイ仙台台グリーンシティ8階
TEL 022-221-5381

●関東甲信越酪農青年女性会議

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2
酪農会館 全酪連東京支所内
TEL 03-5931-8011

●中部酪農青年女性会議

〒460-0008 名古屋市中区栄1-16-6
名古屋三蔵ビル3階 全酪連名古屋支所内
TEL 052-209-5611

●西日本酪農青年女性会議

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10
新大阪トヨタビル6階 全酪連大阪支所内
TEL 06-6305-4196

●九州酪農青年女性会議

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15
事務機ビル7階 全酪連福岡支所内
TEL 092-431-8111

乳牛産地情報

令和7年4月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇩……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	28~38	→	札幌管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で103.7%、累計で100.7%、苫小牧管内月計で100.1%、累計で99.2%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月中旬~7月分娩中心となります。夏分娩が出回り始め、出回り資源の増加と都府県からの需要減少により、やや弱含みで推移されると見込まれます。腹別の価格についてはF1腹、雌雄選別腹に価格差はほぼ無い状況となっております。育成牛については、春分娩が期待できる月回りの牛については資源が少なく、引き合いや確保の動きがあることから、引き続き高値で推移すると見込まれます。当管内での産先購買につきましては、高能力牛が多い地域でもあることから、優良血統や高能力牛のご案内が可能です。
	初妊牛	58~68	⇩	
	経産牛	40~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~40	→	根釧管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で103.6%、累計で101.9%、中標津管内月計で100.9%、累計で101.5%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月~7月中旬の分娩中心となります。夏分娩が出回り始め、資源数の増加と都府県の需要の落ち着きにより、価格は軟調に推移すると見込まれます。腹別における価格推移としては、F1腹は堅調に推移し、雌雄選別腹と和牛受精卵移植腹はやや軟調に推移するものと見込まれます。経産牛動向は4月に離農セールが開催されることから、出回り頭数が増えることから、価格帯についてはやや弱含みで推移するものと見込まれます。
	初妊牛	58~68	⇩	
	経産牛	38~48	⇩	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	32~42	→	帯広管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で103.8%、累計で101.9%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月中旬~7月分娩が中心となります。夏分娩が取引の中心となり始めることから、都府県の需要が落ち着く時期となりますが、当管内においては、道内の導入が見込まれることから、横ばいからやや弱含みに推移すると見込まれます。腹別の資源状況について、全体の出回り頭数は増加し、F1腹と雌雄選別腹ともに確保できる状況となると見込まれます。和牛受精卵移植腹についての出回りもありますが、価格については、受精卵の血統により価格差が開く傾向があります。即戦力となる経産牛につきましては、道内を中心に引き続き需要があります。育成牛については春分娩が期待できる生まれつきの牛については、引き続き高値で推移すると見込まれます。
	初妊牛	58~68	⇩	
	経産牛	45~55	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	30~40	→	道北管内の3月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で99.0%、累計で98.5%、北見管内月計で103.1%、累計で102.5%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、6月中旬~7月の分娩が中心となります。春分娩牛も上場少なくなり夏分娩に切り替わっていくため、相場はやや弱含みに推移すると見込まれます。育成牛は来春分娩が対象になる牛が多いことから、保留される牛も多く、相場は横這いで推移するものと見込まれます。経産牛については前回のホクレン乳価の発表後、需要は引き続き維持されると考えられるため横這いで動く見込まれます。
	初妊牛	55~65	⇩	
	経産牛	38~48	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	32~42	→	道内の3月中旬までの生乳生産量前年比は102.3%、累計で101.3%の実績となっております。4月の初妊牛動向といたしまして、各地域夏分娩も出回り始めることから、資源の増加に加え、都府県の需要が落ち着きを見せてくる事が予想されており、やや弱含みに推移するものと見込まれます。資源について、道内地域差はありますが、F1腹、雌雄選別腹の確保がしやすい時期になってきております。来春分娩が期待される育成牛については堅調に推移する事が見込まれております。今後とも相場動向を注視しながら産先選購買を中心にご希望にあった搾乳用素牛を供給して参りますので、導入計画がございましたらお早目に弊会担当者へご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。
	初妊牛	58~68	⇩	
	経産牛	40~50	⇩	

今月の表紙

今月の表紙は「第14回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「春爛漫」(福島県椎谷信子氏 撮影)です。



令和7年4月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 4月号 No.715

●編集・発行人 飯島洋一

●発行 全国酪農業協同組合連合会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記

- 新年度がスタートいたしました。ご自身の異動・転勤や、ご家族の卒業など、新生活が始まった方も多いかと存じます。4月は多くの人にとって、新しい環境への一步を踏み出す月です。失敗を恐れる気持ちもありますが、春の穏やかな風が背中を押してくれることでしょう。皆様は、この春なにに挑戦されますか？
- 今年度も皆様にとって有意義な情報をお届けして参りますので、どうぞご期待ください。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。
shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



ボクと牛の思い出

七合小学校 3年（関甲信） 興野蒼季

今月の入賞作品は…

七合小学校 3年（関甲信）興野蒼季さんの作品です。

大きな牛さんの背に乗って自慢げにニヤリと笑った表情が良いですね。牛さんの描写が細かくリアルです。スナップ写真を基に描いているのでしょうか。大切な瞬間を絵に描いて表す事は蒼季君の中で写真で残す事とはまた違った思い出となっていく事でしょう。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第50回らくのうこどもギャラリー」で全国255点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議